JOFI OSAKA

JAPAN OFFICIAL FISHING INSTRUCTOR OSAKA

J 400

ジョフィおおさか
1999年（平成11年）12月20日
VOL.5

発行者／大阪府釣りインストラクター連絡機構・広報部編集委員会
大阪市中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階34号 大阪府釣り団体協議会・本部内
TEL.06-6245-4800 FAX.06-6245-1360

これからどうなるのか、検討されています

『遊魚者の立場』

大阪府釣りインストラクター連絡機構
会長　吉川 幾久雄

沿岸漁業等振興法の制定以来36年が経過し、我が国経済、社会の発展や国際情勢の変化等に伴い、新たな問題が生じている。２００海里時代に即応した論議の成果として、水産基本政策検討会報告は幅広く問題提起的に整理し、水産省は、基本政策の具体的内容と実施プログラムを早急に取りまとめることを期待すると結んでいる。

本報告（11年8月）のうち遊魚に関する項を記載し、諸賢の参考に供します。

漁業管理制度の見直し

「平成14年の指定漁業許可の一斉更新や15年の共同漁業権の一斉切替えを目途に検討すべき」とし、地域や魚種によっては資源管理上『遊魚』を無視し得なくなっており、遊魚の管理のあり方を検討する必要がある。

TAC制度の導入に対応した漁業管理制度のあり方

遊魚者が相当量採捕している地域的資源において資源の悪化がみられる場合には、地域の実情に応じたライセンス制や一日あたりの漁獲尾数制度を導入し、実効性のあるTAC管理体制を整備することの検討が必要と考えられる。遊魚者の組織化ができないことが障壁となってきた。実態を踏まえて組織化を担保する制度等の検討が必要としている。遊魚者数が多数にのぼるため、行政の負担が生じると予想される。

漁業許可等制度

漁業調整委員会機能の見直し、海区漁業調整委員会、内水面魚場管理委員会の機能組織の見直しをうたっている。「遊魚関係」として、地域や魚種によっては遊魚による水産資源の採捕量が無視できない状況にあることから、遊魚を管理するための制度の枠組を検討することが必要である。「資源の管理や魚場の利用調整」等を実施するにあたって、遊魚関係者の意見を適切に反映できるしくみを検討することが必要である。

遊漁船については

利用客の安全確保と併せて、資源への配慮をより的確に行い得る制度について検討する。

遊魚

「遊魚」についての管理が必要であり、その内容や方法について検討すべきである。但し管理の中に取り込むには、決定過程での遊魚関係者の参加が必要である。自由放任となっているプレジャーボートによる遊魚について何らかの規制措置が必要である。水産資源は国の財産とも言うべきものなので遊魚者にも、資源管理のコスト負担を求めてもよいのではないかと考え、遊魚者の資源利用等に対する負担をすることは望ましいが、漁業者の負担のあり方と併せて検討すべきである。また放流効果が明らかな魚種については負担制度を検討すべきである。

われわれ組織の釣人は、一般多数の釣人の先頭に立って、国民的見地から、遊魚を考え、後世に残す成果を実行せねばならない。

※TAC法とは…海洋生物資源の保存及び管理に関する法律

JOFI大阪 2000年第一弾行事 新春懇親会開催

2000年新春懇親会

日時　平成11年1月18日（火）PM6：30より
会場　大阪梅田ヒルトンホテル 4階「真珠の間」
会費　￥10,000（当日会場で受付）

JOFI大阪代表。各界来賓挨拶、懇親パーティ、豪華釣具などのお楽しみ抽選会など各種イベント

各界のマスコミ関係・釣り業界、また新加入会員と楽しく、21世紀の新春を語ろうではありませんか。昨年も多数の会員・釣り業界・マスコミ関係など、皆様多数の参加をいただき開催してまいりました。

本年度から会員以外でも、会員の紹介があれば参加が可能となりました。昨年と同様多数の参加をお待ちしています。後日ご案内の書類を送ります。当日は、各界代表の挨拶・懇親パーティー・豪華景品（豪華釣具、ヒルトンホテルのペア宿泊券等）の当たる抽選会が開催されます。

TOPICS
本部掲示板

インストラクター講習会に149人と盛況

平成11年度公認釣りインストラクター養成講習会が、11月27、28の二日間にわたって、守口門真商工会館で開かれた。

大阪会場の参加申し込みは164名。当日受講者は149名と前回より大幅に増加。

受講者の目立った傾向は、二十歳前後の若い学生層が70名近くを占め、さらに、例年とくらべ内水面の受講者が多かった。このことは、学生受講者のなかに、バス指向の若者が増えていることが大きく影響していると思われる。

当日講習会の世話役に当たった実行委員諸氏から、これら若い人々には、直ちに後進の指導にあたるというよりも、自然環境の保全や釣りに関する正しい知識を身につけたうえで、将来的に青少年の指導者としての役割を果たすと同時に、日本の伝統的な釣りごころを伝えてもらいたいといった期待の声が寄せられていた。

また、当日、救難救命、気象海象、漁業法規など専門分野をビデオ収録。今後各地で小規模な講習会を開催するための備えとした。

公認釣りインストラクターの資格試験は、1月23日全国いっせいに実施され、大阪会場は同じく守口門真商工会館2階で行われる。

（副会長　来田 仁成）

JOFI大阪・会員在籍者数

地区別	海水面	内水面	小　計
北部地区	42	8	50
中部地区	73	19	92
南部地区	52	13	65
合　計	167	40	207

外来魚の密放流対策 コクチバスを目標に

全国内水面漁業協同組合連合会が主催する外来魚の密放流対策に関する協議会が、10月15日と12月1日の2回にわたり、東京で開かれた。今年度の協議会のテーマは、現在全国各地に拡大しつつあるコクチバスの密放流対策にしぼられ、すでに生存繁殖が確認されている福島県の桧原湖からの搬出、移植を厳禁することと、密放流を止めるための釣り関連マスコミを含めたキャンペーンを強力に展開することで合意に達した。

この協議会には、水産学者、各府県漁連および府県水産担当官が出席。新たに釣り人代表として、全釣り協から来田常務理事が、日釣振から横溝理事が参加した。

（副会長　来田 仁成）

'99 行事活動メモ

- 4月23日　平成11年度総会
- 5月8日　柏原フィッシングスクール開催
- 5月15日　大東市フィッシングスクール開催
- 6月　枚方市市民釣り教室開催
- 7月18日　淀川クリーンアップキャンペーン参加協力
- 7月24日　八幡市フィッシングスクール開催
- 8月1日　インストラクター研修会
- 8月8日　岬町親子釣り大会協力
- 8月22日　第3回普通救命士講習会
- 8月22日　泉佐野親子釣り大会
- 8月26日　大阪湾稚魚放流事業協力
- 8月28日　和束町キャンプ&フィッシング開催
- 10月17日　大阪府ファミリー釣り大会 全国一斉釣り場清掃デー協力
- 10月24日　BS大阪連盟釣り章講習会指導
- 11月7日　大阪市西区区民まつりフィッシングコーナー開催
- 11月27・28日　公認・釣りインストラクター養成講習会協力
- 1月18日　インストラクター懇親会
- 1月23日　公認・釣りインストラクター資格試験協力
- 2月5・6日　フィッシングショー インオオサカ協力
- 3月5日　大和川クリーンアップキャンペーン参加協力

※釣り教室については開始日のみをのせています

提言 会員からのメッセージ

今、鮎について思うこと見ること考えること そして、私たちはこれから…

中部地区 小関 誠吾

鮎はキユリ科のワカサギやシシャモと分科して、鮎科となったのが２００万年前の間氷期であった。川の水温も低く餌となる藻も少なかったはずである。そこで餌場の確保に縄張りを持つための闘争心が、根付いたと思われる。昔の人は鮎のそんな姿を見て、戦の勝敗を占い、農民は遡上の量によって豊作を占ったという、魚偏に占うで鮎なのである。

鮎は障害がなければ最上流部にまで遡上するので、内陸奥地の住人までが、豊かなタンパク源の恩恵に授かることが出来たのであった。このように古代から、人と鮎との関わりは深かったのである。

戦後までは、川開きと呼んでいた。山も海も同様であった。川の神様に今年も安全に楽しい釣りが出来ますようにと祈って入川したものである。現在は解禁日である。川を見て回る組合員の腕章に看視員・監視員とあるが、一部の密漁者のためとはいえ、善良な釣り人には実に不愉快な文字である。指導者としてはと思うのである。各漁協で御一考をお願いする。またゴミの放置らがあれば指導していただきたい。

放流

鮎には海産と湖産の2種ある。相撲でいえば、海産は寺尾、湖産は千代大海のような、あんこ型ですぐ判別できる。海産の攻撃が一発屋に比べて、湖産は針が掛るまでしつこく追うので、友釣り用に人気がある。

戦前戦後の友釣りは、川幅の細い上流部や支流に限られていた。その当時は交通の便も悪く、宿泊しての釣行で、友釣りは旦那衆の釣りといわれて今ほどの賑わいはなかった。現在のように他人の竿と触れ合うこともなく、豊かな自然のもとで、満足な友釣りが出来たものだった。だが、そんなよき時代は永くは続かなかった。やがて高度成長だ開発だとの、土建国家が出現するのである。林野庁は林道を造り森林伐採に励み山は丸裸。建設省は不必要な所にもダム建設に、その結果地球が生まれて46億年という大自然は見事に破壊され、渓流部のアマゴも友釣り専用釣り場も消滅するのである。

養殖放流

上流支流の友釣りを受け入れたのが、中下流部の漁協である。もともと中下流は素掛けの釣り人で賑わっていたが、漁協によっては全川を友釣り専用区にしたり、素掛け友釣りと区別して、友釣りに力を入れだした折りも折り、軽いカーボン竿の出現などで、爆発的な友釣り党の増加を見るのである。

上流に比べて川幅は広く、釣り人口の増加では、過去の湖産放流のみでは追いつかず、養殖鮎の出現を見るのである。湖産のシラス鮎を、水温の高い和歌山や四国に移して養殖すると、4月中旬にはスーパーの棚に立派な鮎が並ぶのである。養殖よりも海産の天然遡上に力を入れてはと思うのだが、これには大きな問題があるらしい。

鮎は川口近くで産卵し、約15日で孵化して海へ降り、翌年3月頃には一番鮎が母なる川へ遡上するという。問題は発育途中のシラス段階に、沿岸漁協者のイワシシラス網に入るのである。故意的にとは思わないが、どうか禁漁期間を守って頂きたい。

人工孵化養殖

天然遡上は期待薄、養殖は品薄となると多量生産できる人工孵化に頼ることになる。サケ、マスに比べると更に高度な技術が必要とするらしい。それらの努力には感謝せねばと思うのだが、鮎本来の追い気に乏しく、時折奇形も見られて鮎党には不人気である。ただ単に数合わせの放流としか思えないのです。やはり人工では、鮎本来の本能を失うのであろうか、今後に期待したいのである。

鮎の冷水病

ここ数年、鮎の冷水病なるものが大きな問題となっている。奇病である故に、その原因が解らないのである。

外見上は、アゴ、胸ビレ、腹にかけてピンク色に染まっているから、すぐ分かる。難儀なのは赤色であるのはずの、エラの内側と肝臓が貧血状態を表す白色であることだ。特に琵琶湖産系に発生するという。ここ数年解禁日に鮎の姿はおろか噛み跡も見られない年が続き、鮎釣り具の売上げが落ちたと聞くのである。各関係機関で原因究明中だが、先日名光通信社のつりそくに報じられていたのには、カナダから銀ザケの卵を輸入して、琵琶湖に放流した、その卵に菌が付着してたのが原因ではないかというのである。

いずれにせよ、２００万年も延々と受け継いできた鮎の生命体に対し、余りにも人の手で触り過ぎではと思うのは、私、人であろうか。日も早く解決して、楽しい友釣りが出来ることを願うのである。

会報への投稿を歓迎します！

広報部では、充実した会報の作成のための会員の投稿を歓迎します。会運営に対する意見、提言。また、釣り場の環境問題をめぐるレポートなど、どしどしお寄せ下さい。
原稿は郵送またはFAXでお願いします。

大阪市中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル
3階34号　大阪府釣り団体協議会本部内
「JOFI大阪・広報部」
FAX.06-6245-1360

地区 活動報告

●会本部では、こうした情報を参考に未参加の方々の新たなる参加を期待しています。

北部地区

枚方・交野「市民釣りの集い」

家族共々釣りを楽しんで貰おうと6、8、10月の3カ月で延べ8日間枚方市内の大阪府渚下水処理場安定地にて市民参加のもと「市民釣りの集い」が開催されました。

広大な水質安定地には、鯉、鮒、テラピア等が群遊し、釣果も抜群で今年もリピーターで賑わい、全期間市釣行された母娘もおられ、その盛況振りが伺われ、又場内に特設した「市民釣り教室」では、北部地区メンバー、地元の枚方渚釣友会のスタッフが受講者約300名を対象に実技やマナー、ルールの指導にあたり好評を得ました。

毎回来場者も増え、今年も親子連れを中心に約1400名が参加、市民恒例行事になり一同嬉しい悲鳴を上げています。尚、今回も(財)日本釣振興会近畿支部より、「釣り場用ゴミ袋」「参加記念品」等の支援がありました。(北部地区 中出 隆文)

中部地区

ボーイスカウトに釣り技能指導

ボーイスカウトの技能章指導の一環として開催されているボーイスカウト、なには地区進歩委員会主催の「釣り章講習・考査会」は今年も10月24日に泉南の大阪府立青少年海洋センターで行われ、JOFI大阪メンバー10人が参加してその指導にあたりました。この講習会は今年で3年目4回の開催となり、今回を含めて144名の参加があり、120名の合格者を出すことが出来ました。

ボーイスカウト達が将来正しい釣りのマナーやルールを守り、後輩達に正しい普及をして欲しいし、又彼らの中からインストラクターが出ることを期待しています。(中部地区 柴崎 隆)

釣りコーナー今年も西区区民まつりで大人気!

会場にこられた800名以上の人たちと共に、区民祭りを楽しみました。本年は「手作りルアー」・「毛針作り」・「キャスティングゲーム」・「釣り何でも相談」等各コーナーに、小さな子供からお年寄りまで幅広く参加していただきました。

少年達の輝いた目、嬉しそうな笑顔、また父親の顔、母親の顔、どの顔を見ても喜びと楽しみに溢れていました。

また、当日の活動等を理解していただき、今回の釣りインストラクター試験に受講される方も2名いらっしゃいました。このような活動をとうしてインストラクターの底辺を広げ、地球環境問題について、1人でも多く仲間の輪を広げていくことも必要だと感じました。(中部地区 井波 良幸)

やわたフィッシングスクール

第2回やわたフィッシングスクールは7月24日(土)、31日(土)、8月7日(土)の3日間八幡市教育委員会、八幡市体育振興委員会の主催で(社)全日本釣り団体協議会、(社)日本釣振興会、淀川左岸流域下水道渚処理場、青銅出版企画の協力で開催されました。

24日は自然と釣りの基礎知識、31日は実戦に向けた講義、7日は実習で30名の親子、中高生、熟年者とバライティーな生徒さんは釣りインストラクターの熱心な指導で成果をあげ、最終日の釣り大会では、大鯉・大テラピアを釣り上げ釣りの醍醐味をあじわいました。(会長 吉川 幾久雄)

和束町キャンプフィッシング

親と子がキャンプや釣りなどを通して、親子の絆をいっそう深める機会を持つ目的で、今年も8月28日(土)・29日(日)の両日、大江山憩いの広場キャンプ場、宮津市漁師町防波堤で親子15組と釣りインストラクター、教育委員会の指導者とともに観光バス、ワゴン車を連ねて出掛けました。

8月20日、夜間に釣り教室を開き釣具を揃え、操作を習得しました。防波堤の釣果はアジ、全員100匹以上、他魚にキス、小ダイ、コチ、コノシロ、ハゲ等が釣れました。両日ともまずまずの天候で楽しく一夜と釣りを体験しました。幼児から大人まで釣りを満喫した催しでした。(会長 吉川 幾久雄)

地区 活動報告

●JOFI大阪では、会規約の第6条に基づき、大阪府下を3ブロックに分割、地域会員の連絡網や活動組織の強化に努めています。この活動レポートは、地域会員がすでに会員間の交流を広げ活発な活動を展開している模様を皆さんにお知らせするコーナーです。

大東市野崎で大好評

大東市立野崎青少年教育センター主催の釣り教室が、5月15日より6月5日にかけて各週土曜日を利用して4回に分けて行われました。センターの主催事業担当者より釣り教室の要請があり、中部地区のインストラクター8名で今回の要請に対応しました。

受講者は小学校の4年生～中学生を対象としたもので20名の参加申し込みがあり毎回14名～16名の参加がありました。講師も毎回5名程で対応ができて内容の濃い釣り教室となりました。最終回は講師の方も全員が参加、センターの方も担当者2名が参加され、子供たちと一緒になって実習を指導しました。当日は、夏日となり暑さがきびしい中ではありましたが、子供達の竿も比較的よく曲がり十数匹の鮒とクチボソがバケツの中で泳ぎ回っていました。

青少年教育センターの方々にも大変好評で、次回の釣り教室にもJOFI大阪のインストラクター連絡機構が協力することを伝えました。

（中部地区　東野 英治）

地域に定着するかしわらフィッシングスクール

柏原市役所女性センターに於いて本年度で3年目になりますフィッシングスクールが行われました。

第5回、第6回の参加者を対象に、10月17日に参加者50名で、千早川マス釣り場にて保護者同伴実習を行い、無事本年も終了することができました。

当教室も3年目にして参加人数も定着し、講師のインストラクターもやりがいが出て来ました。初めはなかなか思うように指導が出来ませんでしたが、子供達と楽しく遊ぶ事が出来るようになりました。

尚、柏原市教育委員会社会教育課の積極的な協力を得て、ますます実績をあげていきたいと思います。来年度も第7回、第8回と続けていく予定です。（中部地区　中野 恵司）

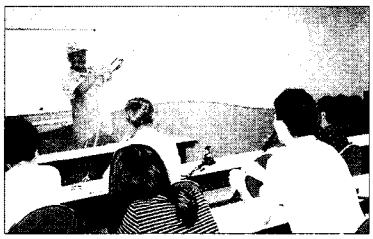
第5回入門コース
5月8日、22日、6月12日の3日間（参加者20名）
第6回入門コース
8月21日、9月11日、25日の3日間（参加者23名）

南部地区

シルバーの夫婦、親子連れに人気の泉佐野市市民海釣り教室

泉佐野市生涯学習センターが、生涯教室の一環として、一般市民を対象に開催しています。今年で5年目の同教室は、8月22日から9月12日の日曜日の4週に開講しました。講師として南部地区の5名が当たり、最終日の実習指導には4名が行いました。

今回は「竿もリールもさわるのがはじめて」の生徒が多く、竿リールの使い方、糸の結び方を重点的に、講師が生徒一人一人につきっきりで教えていました。最終日の9月12日は、泉佐野市の専用バスで、和歌山県・和歌の浦で実釣指導を行いました。生徒より「親切でわかりやすい」との喜びの声もあり、今後も生徒達に喜んでもらえるようガンバッていきたいと思います。



（南部地区　高木 博文）

第二回岬町「親子海釣り大会」開催に協力

8月8日（日）泉南海岸一帯で、岬町マリンフェスティバル実行委員会主催の「親子海釣り大会」が南部地区所属の釣りインストラクター6名が協力し開催されました。

当日は、快晴で早朝より地元町民はもとより遠くは尼崎市や高槻市から親子連れの参加が見られ、海釣り大会への関心が高まっており参加者も最終的には200名を超える盛況さでした。

本大会も2回目であり、南部地区所属の釣りインストラクターの協力で受付や審査又釣り方や仕掛け指導の他、釣り場の清掃等もスムーズに行われ午後1時終了となりました。主催者側も釣りインストラクターの協力に対し深く感謝され、今後の運営についても是非協力して頂きたいとの要望がありました。

（南部地区　山崎 勝彦）

本部行事 最前線

釣り場の清掃や審査に協力
大阪府ファミリー釣り大会

10月17日(日)AM5時泉佐野食品コンビナート護岸へ集合、薄暗い中で早くも大会準備に忙しく働くインストラクターの方々や釣協関係者の姿がありました。空は曇っているが好天の兆し。

朝早くから大会参加者の姿が見え親子連れ、カップル、グループ等がエントリーを済ませ、心づけの募金とゴミ袋を手に各自思い思いのポイントへ。「大きいのを釣ってやー」と釣り人と関係者の和やかな声のやりとりが雰囲気を盛り上げていました。

近場ではイワシが回っており、女性や子供の竿に鈴なりで掛かる魚をお父さんが取り込みや餌付けに忙しそう。外海に近づくにつれ魚種も増え、ボラ、セイゴ、カワハギ、アジ、グレ、チヌ、シマイサギと多種、釣法も様々に楽しんでいました。

見回りと同時に清掃、釣り指導、大会参加への呼びかけとインストラクターの方々は大忙し。最終的に約250名の参加者でした。

11時審査受付の時間前から釣果を手に訪れる親子連れもあり、12時の受付終了時には本部テント前は大忙し。検寸結果が分かると喜びの声が釣り人の間から上がっていました。表彰発表前に大会主催者代表の広瀬氏、日釣振副会長とインストラクターの佐藤氏より挨拶を頂いきました。そしていよいよ発表、優勝された方も入賞を逃した方も一様に秋晴れの中楽しい一日を過ごし、「来年も開催されますか?」と若いカップルや親子連れの人達が何度も聞いていました。又、手にはゴミ袋を持って本部テントに「来年も楽しませてやー」との声を頂き、今大会が無事に終了出来た事を関係者全員が喜び合いました。当日は、何一つトラブルもなく本部テント横にはゴミ袋の山が出来ていました。又来年も頑張りましょうと釣り場を後に解散しました。

(中部地区 東野英治)

JOFI大阪会員の皆様へ
釣り教室の輪を広げよう!

現在JOFI大阪のメンバーで、8つの釣り教室(約1090名参加)が開かれており、来年度は新たに2つの釣り教室が計画されています。

インストラクターの皆様、私達が釣りを通じていろんなことを感じ、学び、この楽しい釣りを通じ日々の生活の潤滑油にしている訳ですが、次代を担う少年少女達に釣りへのきっかけ、釣りの基本を知ってもらう機会を是非作ろうではありませんか。そこで皆様に朗報があります。

今までは釣り教室を開くにもいろいろと教材の準備などの問題で予算上無理な事もありました。この度、財団法人日本釣振興会よりJOFI大阪釣り教室への教材提供協力がありました。今までは少ない予算でやりくりして、十分な指導も出来ない状態でしたが、今年度より予算化され、各教室に貸与していただく事になりました。

そこで、教室をやってみようと考える方に案内します。まずは近くのインストラクター5名程の方に声を掛けて協力体制を作ります。そして地元の教育委員会社会教育課を窓口に、釣り教室の計画書を作成して、自分達の考えを伝え、協力をお願いします。計画書については、インストラクターの立場を明記して、釣り教室のテキスト(八木禧昌氏企画編集制作)が、事務局にありますので添付して、内容から3日間1コースの教室がよいと思います。理解を得られれば予算もつきます。

詳細、ご相談希望の方はJOFI大阪事務局まで連絡いただければご相談に応じます。

(事務局長 中野恵司)

新釣り教室の開催予定

東大阪市釣り教室の予定

開催日 平成12年5月〜6月頃
開催会場 東大阪市立社会教育課と調整中
内容 講座3日間と実地1日

大阪市西区区民釣教室開催予定

大阪市西区では、区長との協賛で初めての市民釣り教室を開催します。

開催日 平成12年夏頃
内容 子供達だけでなく、大人の方にも一緒なって魚釣りの楽しさを、味わってもらう「親子共々の釣り教室」にしたいと思っています。講座を3日間行い、実地については近くの波止で「サビキ釣り」「投げ釣り」を楽しんでもらう予定です。
会場 西区区民センター
会費 無料
募集人数 40名〜50名

●地球環境をみんなで考えよう。

本部行事 最前線

淀川クリーンアップキャンペーン

放送業界も参加して淀川クリーンキャンペーンが、7月18日雨模様のなか「わんどの清掃と生物調査」を目的として決行されました。近郊の市民やボーイスカウトの少年達等、ボランティア参加が多数有り、淀川の清掃奉仕を行いました。

当日、私達インストラクターは城北公園に21名が集合し参加しました。また、インストラクターの代表も演台に上がり挨拶をおこないましたが、このような活動を通じてインストラクターの存在をアピールするとともに、仲間との親睦もより深くなっていきます。次回の開催には、一人でも多く参加して淀川がいつまでも市民の憩いの場として美しく保てるように協力しましょう。

（中部地区　井波良幸）

子供さんお孫さんも一緒に稚魚放流

8月26日は天気にも恵まれ、波もなく絶好の放流日和でした。

白浜からやってきたチヌの稚魚3万7千匹をバケツリレーで車の生簀から各船の生簀へ積み込む作業から始まりました。小学生児童・御婦人方の活躍ぶりには目を見張るものがあり、なかには元気がよすぎバケツから飛び出した稚魚の救出に、嬉々として走り回るチビッコたちの姿には思わず参加者達の笑顔を誘っていました。

船の生簀から放流された稚魚たちは大きくなって帰ってくるよとばかり、一斉に元気に深く潜っていきました。

この事業にはフィッシングショーで釣り人仲間の願いを込めて募金頂いた放流基金の一部も当てられています。来年の募金協力もよろしくお願いします。

（南部地区　高渕諒）

今年も人工呼吸・心臓マッサージについて勉強しました

さる平成11年8月22日、第3回普通救命士資格講習会が今回は大阪市中央消防署の協力で講習会を催しました。出席メンバーの方は予定より少なく11名の参加でした。小人数が幸いし一人一人の持ち時間が多く取れ中味の濃い充実した講習内容となりました。指導を願った消防局員さんも7名もの皆さんから直接指導を受ける事ができ、又その結果は、一人一人の行動記録データーとして、ペーパーで出力され、個々に結果はどうであったか、又どの点に気を付けるか、データーの数字に基づいた丁寧な指導であり、有意義な時間を過ごせました。この体験を不慮の事故に生かしたいと思います。

（中部地区　浜上勲）

平成11年度大阪府釣りインストラクター研修会の実施

8月1日（日）岬町の大阪府水産試験場に於いて大阪府の漁業制度や栽培漁業について研修を行ないました。参加者は53名。

当日は休日にも拘らず出勤された大阪府水産課森課長に依り漁業制度の解説、質疑応答後栽培センター飼育水槽にて放流前のオニオコゼ、マコガレイを見学しました。

栽培センターでは魚卵から中間育成迄行い大阪湾に放流しています。栽培している魚種はクルマエビ、ヨシエビ、ガザミ、クロダイ、マコガレイ、アカガレイで年間約2800万尾の放流により大阪の食を豊かにしています。

私達釣り人は小さな魚は海に戻し資源保護に心掛けたいものです。ちなみに漁業者の自主設定の放流サイズは次の通りマダイ、メイタカレイ13センチ、マコガレイ15センチ、ヒラメ24センチ、ガザミ12センチである。

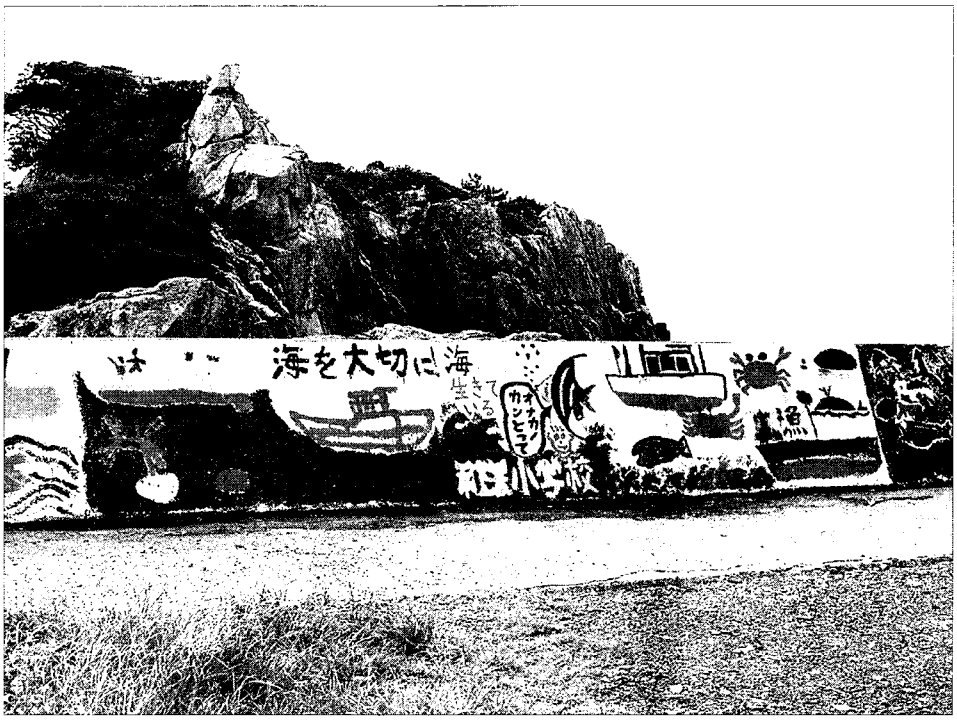
（南部地区　馬谷昆志）

BACK STAGE

『磯をきれいに』呼びかけ実る

和歌山県 海面・内水面公認インストラクター 四間 一哉

大漁釣り、大物釣りの話題は楽しいが、かなり以前から、釣り場がごみで汚れ、環境悪化が叫ばれている。和歌山市西浜、会社役員で全日本釣り団体協議会公認インストラクターの四間一哉さん（63）は2ヶ月かけ和歌山県串本町和深の好地磯「えびす」の清掃に取り組み、見違えるようなきれいな釣り場に様変わりした。



釣り餌や弁当の空き箱などが捨てられ、
磯が座れないほど汚れていた串本町和深の船波で３０日、
近くの町立和深小学校の４～6年２３人が、
磯野続く漁港防波堤に絵や標語を書きポイ捨て禁止を呼びかけた。
（1999年8月3日　紀伊民報より）

串本町役場も清掃に協力し、四間さんは「このえびすが関西の地磯の模範釣り場の出発点になってくれれば」と願っている。

えびすは、岩盤が海に突き出た形の地磯。グレを中心に四季折々の魚が集まり、県内外の釣り愛好家に親しまれてきた。しかし、以前から弁当箱や釣り餌の残りが散乱して、悪臭ぷんぷん。近くの駐車場付近の雑木林や草むらも、ごみでいっぱいになっていた。

2ヶ月前、グレ釣りに出掛けた四間さんがこれに気づき、地元の人達に清掃を呼び掛けた。もちろん、四間さんは度々、現地に出向き、ごみを拾い集めたり、「釣り場の清掃にご協力下さい」などの看板を立てたりした。ごみを拾う火ばしも5本設置。地元の協力も得られ、串本町役場からも軽トラックが出て、大量のごみを回収。

今では、青い海が広がるすがすがしい釣り場に変貌。釣りファンが気持ちよく楽しめる環境になった。

全日本釣り団体協議会（東京都千代田区）の話によると、ボランティアで釣りのマナーやルールを指導する公認インストラクターは全国に2600人。関西には約450人いて、その8割は海の環境保全のために活躍しているという。千葉県では公認インストラクターがグループで、釣り場の清掃奉仕をしているが、「四間さんのように1人で清掃に立ち上がり、地元の協力も得たという例は少ない。こういう人が増えれば、日本の沿岸部分や海はきれいになるでしょう」と話している。

（1999年4月14日夕刊　読売新聞より）

編集後記

会員の皆様からの情報を元に記事作成し、年2回発行しています。今回の発行につきましては、多数の記事・写真の提供があり、広報部一同感謝しております。多数の皆様のご協力で予想より早く完成しました。誠に申し訳ありませんでしたが、記事が入りきらずに少しずつ削らせていただいた所もありますのでご了承下さい。最初の編集委員会では、全員記事が集まるか、どうしてやって行こう等本当に心配でしたがありがとうございました。

今回トップ記事にしました「これからどうなるのか、検討されています遊漁者の立場」として、大阪府釣りインストラクター連絡機構会長の吉川幾久雄氏に、現在検討されている内容を取りまとめていただきました。皆様それぞれ遊魚者の立場についての考え方はいろいろあると思います。会員皆様の多種多様のご意見をお待ちしております。その意見を投稿により広報紙に掲載し、会員・行政・業界等に知ってもらいましょう。また、第八面の「磯をきれいに」の記事は、読売新聞に掲載された内容ですが、一人の小さなボランティア行動が、大きな成果を生むことになります。私達一人々の力は小さくても、少しずつでも地球環境を良くして行きたいものです。清掃に取り組まれきれいな釣り場にされた四間一哉氏（和歌山県 海面 内水面公認インストラクター）に拍手を送りたいと思います。これからの新しい時代に、私たち遊漁者の方向を皆様と共に考えて行きましょう。

これからも今回と同様に、多くの記事や写真の投稿等ご協力をいただき、より楽しい充実した広報紙にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。（広報部編集者一同）